

令和3年度 第2回磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会議録

【日時】 令和3年10月27日（水）午後1時30分～午後3時

【会場】 中遠広域粗大ごみ処理施設 2階大会議室

【出席者】 会長 藤田 允
副会長 伊藤 よし子
委員 玉田 文江 寺田 ヒサ子
 今泉 佳代 宮地 浩
 山本 壮志 伊藤 慎弥
 根津 康広 武藤 美恵
 順不同（10名出席）
（欠席：渡邊 カルロス、鎌田 俊己、鈴木 哲一）

【事務局】 環境水道部長、ごみ対策課長
ごみ対策課長補佐、審議会担当職員1名
環境課職員2名、上下水道総務課職員2名

【会議概要】

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - （1）磐田市一般廃棄物処理基本計画の素案について
 - （2）その他報告事項
- 4 閉会

【意見・質疑の主な内容】

1 開会

〈事務局〉 皆様、こんにちは。磐田市ごみ対策課長の太田でございます。

本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。日ごろは当市のごみ減量施策の推進に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本日は、はじめに審議会の会議をお願いし、その後施設見学を予定しています。

本日は、基本計画の改定の審議をお願いするにあたり、関係課の環境課と上下水道総務課の職員も同席していますのでご承知下さい。

本日、委員の半数以上が出席しておりますので、磐田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第25条第2項によりまして、本会議が有効に成立していることを、ご報告申し上げます。審議会の進行については、条例施行規則第25条第1項により、会長が議長となりますので、以後の議事進行につきましては、藤田会長よろしくお願いたします。

2 会長挨拶

〈会長〉 皆様におかれましては、お忙しい中、当審議会へご出席いただきありがとうございます。

3 議事

(1) 磐田市一般廃棄物処理基本計画の素案について

〈事務局より説明〉

〈会長〉 本日欠席の委員から計画素案について事前にご質問が提出されていますので、事務局より説明と回答をします。

〈質問内容を事務局代読〉

家庭ごみの扱いとなる例えば「解体前残置物」等の運搬に関して、基本計画改定の際、抜本的な見直しが必要ではないかと考えます。市直営を基本とするのではなく、民間活力を利用して、「事業系一般廃棄物許可業者」は、それを取り扱えることとする取扱いの変更を検討すべきと考えます。市民の利便性や迅速性、市の持出経費等を総合的に勘案して見直し検討を期待します。

〈事務局〉 意見については、県内の状況などを情報収集しながら、総合的に検討していきます。

《質問内容を事務局代読》

今後の新規許可の表現については、ただしの後「災害などの事由により」は、削除すべきと考えます。災害廃棄物の処理については、再委託を含め特例が設けられていますので、廃棄物量の増加をもって、業者数を増やすという考えはするべきではないと考えます。許可ですから、一旦それを増やしてしまうと片付け完了後の許可の扱いをどのようにするかで混乱が生じます。

〈事務局〉 ご指摘の通り、非常災害時には受託者が一般廃棄物の収集、運搬、処分等を再委託することが可能とされており、素案の表現では混乱を生じる可能性があることから、表現の見直しを検討します。

〈会長〉 その他、計画素案について、ご質問があればお願いします。

〈委員〉 国や県と整合性を図って目標設定をしていますが、本市は全国平均よりも一人一日あたりのごみの排出量が少ない実態を考慮して目標設定をしたのかお聞きします。また、国が設定した目標を達成できていない要因は何かお聞きします。

〈事務局〉 1点目の目標設定の考え方です。市民の皆さんのご協力により、本市は一人一日あたりのごみ排出量が県内10万人以上の市では3番目に少ない状況です。今後も分別等を継続し、現計画で達成できなかった10%減の目標を改めて設定しています。

2点目の目標達成できていない要因です。全国的にも本市においても事業系ごみが景気動向によって増加してきたことが要因と考えています。

〈委員〉 昨年来、コロナの影響でごみ排出量が増加しているとの説明がありました。コロナの影響もずっと続くわけではないと思います。それを反映した目標値を設定しているのですか。

〈事務局〉 令和2年度のごみ排出量はコロナの影響で若干増加していますが、現在は減少傾向にあるので、令和2年度を基準として10%減の目標

を設定しています。

〈委員〉 ごみ排出量が少ないということは、3Rへの取組みがあると思いますが、考えをお聞きします。

〈事務局〉 3Rの取組みの重要性に関しては、委員の皆さんからも様々な意見をいただいています。例えば、コンポストの補助金申請は、昨年も非常に件数が増えており、家庭ごみの自家処理を推進してごみの減量につながっています。また、新たに食品ロス削減にも取組み、キャンペーンを通じて事業系食品ロスを減らしていきたいと思えます。

〈委員〉 いわたCOOL CHOICE DAYはどのような取組みですか。

〈事務局〉 本市が令和3年6月に「ゼロカーボンシティ」を表明したことに伴い、市役所における取組みとして、8月から月1回、第3金曜日に実施しています。具体的な活動として、従来からの取組みである「ノーカーデー」に加え、ペットボトルを使用しない「マイボトル」の取組み、自宅や市役所周辺のごみ拾いを10分間行う取組み等を実施しています。更に、本庁舎や支所等7施設において、地産地消の再生可能エネルギーの電力使用に取り組んでいます。

〈委員〉 資源化率が下がっている要因は何ですか。

〈事務局〉 民間の資源物回収拠点の整備が進み、地域団体が実施する古紙等の集団資源回収量が減少傾向にあることが要因と考えています。

〈委員〉 新たな取組みの中の、高齢者世帯へのごみ出し支援の実施について具体的に教えて下さい。

〈事務局〉 現在、粗大ごみの戸別収集については有料により直営収集とすることを基本としています。冒頭のご質問にもあった民間業者による収集も可能にすることを検討してはどの提案がありましたが、先行している他の自治体の状況も調べて、新たな計画の中で検討していきたいと考えています。

〈会長〉 粗大ごみは市で、小さなごみは社会福祉協議会のせいかつ応援倶楽部で対応してもらえるので、よろしくお願いします。

〈委員〉 一人一日あたりのごみ排出量の目標値の 667 g を 1 g 削減し、過去 1 番少なかった平成 25 年度の 666g にするのはどうでしょうか。

〈事務局〉 検討し、次回の審議会で報告させていただきます。

〈委員〉 食品ロス削減キャンペーン参加店舗 25 店をどのように決めたのですか。

〈事務局〉 平成 21 年に「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」を締結しました。市民の皆さんや事業者の協力で、レジ袋の辞退率が 90% を超え、一定の成果を得られたため、次の展開として同じ枠組みで 6 月 30 日に「食品ロス及びプラスチックごみの削減に向けた取組みに関する協定」を締結し、その中の 25 店に参加いただいています。

〈委員〉 令和 13 年度に資源化率 28.0% を達成するための具体的な取組みについて教えて下さい。

〈事務局〉 現在、最終処分場に埋め立てている磐田市クリーンセンターで発生した焼却灰を資源化することで、資源化率の向上を目指していきたいと考えています。

〈委員〉 小中学生を対象にしたごみ分別会や施設見学を引き続き実施することですが、対象を幼稚園や保育園まで拡充していけば、小さい時から遊びの中で分別等を自然に身につけていくと思います。

〈事務局〉 検討していきます。

〈委員〉 シニアクラブでは会議の度にペットボトルの飲み物が出されますが、マイボトルを持参してもらいたい良い案はありますか。

〈事務局〉 今年スタートした、いわた COOL CHOICE DAY の中で職員がマイボトルを持参することで、ペットボトルを減らす取組みがあります。地道に啓発して、少しでもペットボトルを減らしたい

と思います。委員の皆さんも、関係団体で啓発に協力していただき市全体でペットボトルやプラスチックごみが減るようご協力をお願いします。

〈委員〉 素案の基本方針にある3Rを県で推奨する6Rにできない理由を教えてください。

〈事務局〉 静岡県が今年度見直している静岡県循環型社会形成計画の基本理念も3Rの推進であり、循環型社会を目指すにはまず3Rが基本という考え方です。本市としても循環型社会を目指すにあたり、市民に分かりやすい3Rを基本とし、その取組みの一環である海洋プラスチック削減について県の6Rを参考にして取り組むよう考えています。

〈委員〉 公共施設の自動販売機ではペットボトルをたくさん販売していますが、ペットボトルを一斉にアルミ缶に変えた店舗もあります。このようなことも検討をお願いします。

〈事務局〉 本市は6月にゼロカーボンシティを宣言したので、できることから検討し、取り組んでいきたいと考えています。

(2) その他報告事項

《今後の予定について事務局より説明》

〈会長〉 本日の議案審議は全て、これで終了しました。

〈事務局〉 以上を持ちまして、令和3年度第2回審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

4 閉会